

# リーダーの心得

第4回目はこれまで紹介したPM理論、SL理論に加え、ソーシャルスタイルを題材にリーダーのコミュニケーション、チーム作りについて考えていきましょう。

## 第4回：個性に合わせたコミュニケーションとチーム作り

### 1. ソーシャルスタイルとは

ソーシャルスタイルとは、アメリカの産業心理学者であるデビッド・メリル氏が提唱したコミュニケーションの理論です。人の態度を観察して、自己主張と感情表現の強弱で4つのタイプに分類しています。インターネットで調べると簡易なものから詳細な診断用のチェックリストがありますので、ご自身やメンバーのタイプを調べるにはそちらをご利用ください。

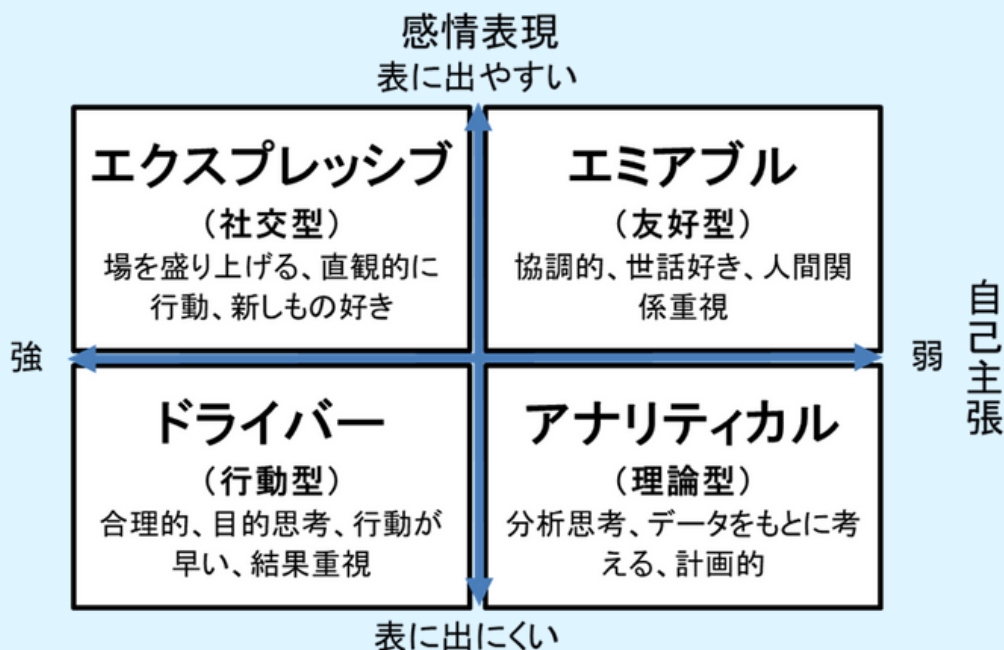
ここではチームで活動をするQCサークル活動で活用しやすいように平易に記述しますが、本来はもっと詳細な特徴、行動が定義されていますので活用の際はそちらをご覧ください。

#### <ソーシャルスタイルの4つのタイプ>

- ドライバー** 行動が早く、目標達成志向が強いのでサークルを引っ張ってくれる
- エクスペッシブ** 楽観主義、新しいことに挑戦するのも好きなのでサークルを盛り上げてくれる
- エミアブル** 皆のために頑張り、サポートしてくれるのでサークルの調和を取ってくれる
- アナリティカル** 分析を好み、計画的にコツコツ進めてくれるので現状把握、要因解析に強みを発揮性

いかがでしょうか？皆さんの職場にもいろいろなタイプの方がいらっしゃると思いますが、如何に個性を生かしながらサークル・組織能力を高めるかが企業にとっても重要となります。

(図・4参照)



図・4 ソーシャルスタイル

## 2. 自身の特徴、メンバーそれぞれの成熟度、個性を踏まえたチーム作り

前回までにPM理論、SL理論、今回はソーシャルスタイルをここまでご紹介してきました。

PM理論ではご自身のリーダーシップの強み弱みを紹介しました。もちろん自己を振り返り行動を変えていくことは自身の成長にとって非常に大事ですが、周りの信頼を勝ち得て効果を発揮するには時間がかかります。サークルとしてのテーマ解決は短期決戦なのでメンバーの特性を見ながら自身がメンバーをまとめるのが不得意なら、得意なメンバーをサブリーダーにする手もあります。またメンバーのテーマにおけるスキル、成熟度やソーシャルスタイルのタイプによって活動ステップ毎にメンバーの強み、育成を考えて役割・組み合わせを決めることも組織能力を高めるうえで重要です。そしてSL理論を参考にメンバー個々に成熟度を見ながらコミュニケーション、人材を育成することがQCサークル運営における重点指向と考えます。

ここまででメンバーの適材適所のチーム作りのヒントをご紹介しましたので、次回はリーダーとして取るべき行動について考えてみたいと思いますのでお楽しみに。



### 野上 真裕 (のがみ まさひろ)

株式会社TMJ 運営管理部 副部長  
NGM K-consulting 代表

QCサークル本部幹事、『QCサークル』誌編集委員、  
QCサークルセミナー指導講師 など  
QCサークル関連事業に数多くご協力いただいております。  
ご自身の豊富な社内外での経験から、小集団のリーダーの皆様へ役立つ提言をいただきます。